◆モニタリングサイト1000　里地調査

平岡どんぐりの森は、環境省のプロジェクト『モニタリングサイト 1000 里地調査』の一環として、2009 年からカエル類（平岡公園）と鳥類（東部緑地）の調査に参加しています。

◎鳥類（越冬期）　調査日 ' 16 年 1/21　2/3　2/18　（東部緑地）

東部緑地の大曲川沿いの遊歩道約1kmを歩きながら、半径 50m 以内で確認された鳥類の種名・個体数・行動を記録します。パークゴルフ場横の遊歩道入口をスタート地点に、雑木林・湿地・草原・河畔林等の環境ごとに視認できた鳥、声を聴けた鳥を記録します。鳥類の調査は、繁殖期（東部緑地では 5 月～6 月）と越冬期（1 月～2 月）に、それぞれ 6 回（3 往復）の調査をしています。毎年同じ時期、同じ地点で観察し記録することで、生息する鳥の数・種類の変化をモニタリングするのが目的です。プロジェクトは 5 年を 1 サイクルとしており、東部緑地の調査は第 2 サイクルの 2 年目になります。

今年も、冬季の鳥調査が新年の活動初めになりました。朝から降っていた雪が調査開始と同時に止んで青空が広がり、野鳥の姿がたくさん見られました。

2 月 3 日は暦の上では立春、厳冬期ですが春のような陽ざしにヤナギやキタコブシの芽がふくらんで、野鳥の声は早くも春のさえずりのように響きました。

シジュウカラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、エナガを確認しました。

◆ 平岡公園　人工湿地での活動

平岡公園に「人工湿地」が造られてから十数年が経過しました。農地だった所に湿地の基盤が造成したのが 2000 年 4 月。最初に**オオミズゴケ、ワタスゲ、サギスゲ、ヤチスゲ、ミツガシワ**など 10 数種の湿生植物を導入し、その後数回にわたって石狩地域の湿地から許可を得て採取した植物の移植や種まきをしてきました。私たち『平岡どんぐりの森』は、公園づくりを考える協働の場である『はらっぱ会議』に参加して、人工湿地の維持管理に協力し、自然観察のフィールドとして見守っています。大雨や川の増水による湿地の冠水や、外来植物の侵入、増えすぎて他の植物を圧迫するヨシへの対策など、さまざまな試行錯誤を経て、現在は四季それぞれに湿地の景観とそこに生息する生き物たちを観察する場となっています。

定例の観察会『ながぐつの土曜日』や『平岡公園ツリーウオッチング』でも毎回のように人工湿地の木道がコースに入っていますが、北海道自然観察協議会主催の下記の観察会では、人工湿地の移り変わりに焦点を当てています。また、湿地づくりを主導してきた札幌市立大学の矢部和夫先生の解説で歩く平岡公園ツアー（詳しくは平岡公園のホームページ www.sapporo-park.or.jp/hiraoka/）もありますので、人工湿地をもっとよく知るために、ぜひご参加ください。

平岡公園観察会　　**人工湿地の変わる様子を観よう**　　北海道自然観察協議会

5 月 22 日（日）　6 月 19 日（日）　7 月 17 日（日）　9 月 18 日（日）

平岡公園第 1 駐車場（厚別中央通沿い）10:00 集合　～　12:00解散
参加費 100 円（保険料など）　　小雨決行
問い合わせ　　佐藤祐一　011-881-5336